

はじめに

老年看護学は今やすべての看護領域で必要とされている学問といえるでしょう。いかに生きて老いを迎え、より良い人生を閉じるのかということは、あらゆる年齢の人にとって共通の課題だからです。これは、自分の生活のありさまを意識し、患者あるいは個人として生きていくために、必要な課題でもありましょう。

人々のこれまでの願いは、「長寿」でした。それを実現できたいま、人々は生活のすべてに「加齢」という課題を突きつけられ、自分の老後を意識して「老いていくとは何か」を考えさせられています。このことは、医療の場においてはもちろんのこと、地域の生活でいかに高齢者の生きがいを考えるべきかといった課題とともに、高齢者の力を地域活動に活用するといったさまざまな期待もされています。超高齢社会をマイナスイメージでとらえるのではなく、たまたま高齢者が人口の多くを占める社会を、どう生かして活気あるものにしていくかという考え方になってきているように思われます。

医療機関では、入院患者のほとんどが65歳以上になっています。これは、病院で看護を考えると、あらゆる領域で「老化」の知識なしに看護を実践できないということでもあります。成人領域や精神領域、在宅領域ではもとより、母性・小児領域においてさえも、家族関係をみる際には、高齢者の課題は避けられなくなっています。医療体制が病院から地域へシフトしてきていることを考えると、地域全体で高齢者ケアを考え、生活機能の視点をもった看護を実践していくことが必要だといえましょう。

以上の視点を基盤にしなが、『老年看護学②高齢者看護の実践』の今回の改訂7版では、高齢者の看護を体系的にとらえることができるように、生活、症候・疾患・障害、受療状況に分けて「第1部 高齢者の生活を支える看護」「第2部 高齢者に起こりやすい症候・疾患・障害と看護」「第3部 受療状況に応じた高齢者の看護」の3部構成としました。そして、高齢者特有の解説に絞ることによって、高齢者看護の実際をより効果的に学ぶことができるようにしています。また、各章扉に事例とイラストを入れ、その章の事前学習として学生の皆さんの思考を促すように工夫しました。事例は高齢者に多い疾患・症状のうち実習で遭遇しやすい状況であり、各章を学ぶことで解決策のヒントが得られるようにしています。

第1部の高齢者の生活では、加齢変化と、さまざまな疾患や薬剤による影響、環境から起こる変化が連続して、あるいは加齢変化に重なって起こってきます。それゆえ、これらの関連を“つないで”理解できる構成にするとともに、それぞれの原因についても、しっかり学べるようにしました。「食事」「排泄」「清潔・衣生活」「活動と休息」「歩行・移動」といった内容についても、前述したような関連を意識して学べるように、生活場面の構成をブラッシュアップし、実習や臨床現場に即した構成としています。

第2部の高齢者に多くみられる疾患については、冒頭に「症状のアセスメント」の章を新設し、まず痛み、かゆみ、脱水といった高齢者に起こりやすい症状のアセスメントについての知識を得てから疾患・障害を学ぶ流れとしました。そして、患者数が増えている白内障、変形性関節症、尿路感染症、前立腺肥大症などについて、図解を交えて詳説しています。

患者数の増加が見込まれ、国全体の課題となっている「認知症」については、図表等も加えながら詳しく解説しました。認知症の看護は、人の尊厳や倫理的課題、本人が意思を十分に伝えられないときのコミュニケーション方法や情報の把握、自己決定など、高齢者看護の本質的な課題をたくさん含んでいます。認知症ケアを学ぶに当たって、重要なポイントを押さえた内容になっているといえます。さらに、多職種連携や急性期医療、終末期における認知症高齢者への看護に必要な視点も養えるようにしました。

第3部の治療を受ける高齢者の看護については、薬物療法、手術療法、リハビリテーションという構成にして、それぞれの臨床・臨地場面で重要となる看護のポイントをまとめられています。

終末期の看護については、ターミナル期、臨死期、看取りといった時期において、高齢者、家族とどのように関わるかを解説し、看護師としての役割や考え方について述べています。また、終末期ケアと信仰についても考えが及ぶような記述を加えました。

患者の全体像の把握に欠かせない関連図については学生たちがとかく高齢者の弱みを挙げがちですが、強みに注目して関連が把握できるよう、巻末付録ページ「“その人らしさがみえる”関連図 書き方のキホンとコツ」を新設しました。事例に沿って図解し、関連図の考え方と書く手順が視覚的に学べるようにしています。

実習の章については、事例を示しながら述べる構成で、「関連図 書き方のキホンとコツ」に沿って“その人らしさがみえる”関連図を提示し、レイアウトも統一して記述しました。老年看護で大切にしたい、その人らしさを尊重するという目標志向型思考に沿って、健康課題の抽出から看護実践・評価まで詳しく解説しています。

『老年看護学①高齢者の健康と障害』と『老年看護学②高齢者看護の実践』を併せて活用いただき、より良い看護実践によって高齢者がより質の高い看護を受けられること、最期まで尊厳をもった生活を送れることを願っています。

今後もますます内容の充実を図っていきたいと考えております。皆様からの忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただけましたら幸いです。

編者を代表して 堀内ふき